



雑司が谷旧宣教師館だより

第24号
2002年5月1日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷1-25-5 ☎/FAX(03)3985-4081

平成14年雑司が谷旧宣教師館事業予定

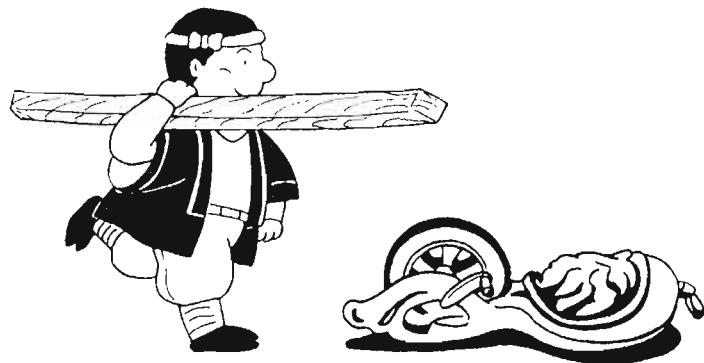
事業名	日時	場所	その他
春期地域史講座 「秋田雨雀と雑司が谷」 —雨雀の日記から— 講師：長谷 幸江 さん	5月28日 ^{6/25} 6月4日 ^{7/29} 6月11日(火曜日) 10時～12時 (全3回)	研修室	○詳細は広報としま5/15日号に掲載予定 ○無料、電話申込、先着順、定員20名(6/15より受付)
武蔵野の野草を育てる 「八重咲きドクダミ」 講師：豊島区公園緑地課職員	6月14日(金) 10時～12時	研修室 中庭	○詳細は広報としま6/5日号掲載予定、有料、電話申込、先着順、定員20名(6/5より受付)
「ブルーベリー摘みと草木染」 ①子ども 10名 ②大人 10名	7月20日(金) ①10時～12時 ②1時～3時	研修室 中庭	○広報としま7/5日号に掲載予定、有料、電話申込、先着順、合計20名(7/5より受付)
東京文化財ウィーク参加(10月1日～11月30日)事業①②			
①「岡野誠、戦地からの絵てがみ展 — PART II —」 (地域資料の公開)	10月12日(土) ～11月24日(日) (予定)	本館	○広報としま・東京文化財ウィークプログラム掲載予定 ○雑司が谷旧宣教師館だより ポスター・チラシ・壁新聞 もご覧ください。
②「旧雑司が谷村の文化財ウィーク(仮称)」 明日館～鬼子母神～ 雑司ヶ谷霊園～本館まで	東京文化財 ウィーク 期間中	旧雑司 が谷村 地域	
秋期地域史講座 「雑司が谷学事始めII」 ※講師・テーマ交渉中	10月～11月 (全3～4回) (予定)	研修室 他	○広報としま掲載予定

「秋田雨雀と雑司が谷」

雑司が谷旧宣教師館はマッケーレブ関係、建築関係、雑司が谷文化関係の3つのテーマに沿って展示および資料収集を行っています。雑司が谷文化について見ると、雑司が谷には大正時代、秋田雨雀、窪田空穂、小川未明、長沼(高

村)千恵子、村山知義、菊池寛など多数の文学者、芸術家たちが住んでいました。なかでも秋田雨雀(1883～1962)は1905年から1944年まで雑司が谷に在住し、町会役員を引き受けるなど地域と密接なかかわりを持ち、地域の人たちからは温厚な文化人と見られていました。

雨雀は大正4(1915)年から昭和37(1962)年1月21日、死の四ヵ月前まで47冊に及ぶ克明な日記を残しています。鬼子母神門前に住んだ雨雀は、お会式や高田村の消防組の出初式など雑司が谷の地域文化に深くかわり、大正7年2月3日の日記には、「午後、豆まき。7時ごろからぼうぼうで、『福は内!福は内!』という声がきこえる。…中略…(鬼子母神では鬼は外とはいわない)」と、日々の観察の詳細も記されています。



雨雀の妻(きぬ)の母(やす)は、もと漱石の養父である塩原昌之助の妻であり明治7年に離縁しましたが、漱石が八歳になるまで養育しています。雨雀日記の中には、「…お婆さんは夏目氏を訪う。夫婦ともいなかったそうだ。」(大正4(1915)年11月11日)のように、おばあさんを通しての夏目家との交流、隣に越してきた歌人・中塚一碧楼とのご近所付き合い、銭湯で窪田空穂と一緒にあった日のことなど、当時の市井の暮らし振りもよく描かれています。

雑司が谷の地域性・歴史および文化活動を、雨雀の日記を通して浮かび上がらせることを今回の講座の目的とします。

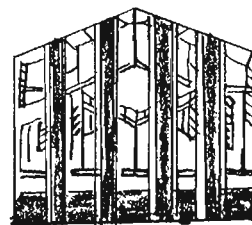
最近のレファレンスから

- ◆アメリカ、アリゾナ州のトラン・N・Vさん ”Lonely Planet” (アメリカの旅行本) の ”McCaleb, John Moody worked for Japanese people for 50 years” (J・M・マッカーレブ、日本人のために50年間働く。)の記事に関心もち来日。マッカーレブの何でも?
- ◇マッカーレブの慈善活動・伝道活動等の日本における彼の足跡について応答。

— 近隣の建物紹介 —
自由学園明日館

明日館は「自由学園」発祥の校舎で、アメリカの建築家フランク・ロイド・ライトの設計で大正10(1921)年に完成。自由学園は羽仁吉一・もと子夫妻が設立、大正デモクラシー期に誕生した自由教育運動の象徴として教育史の分野からも注目されてきました。

地をほうようなアメリカの草原住宅の発想を取り入れたツーバイフォーの工法が用いられ、クリーム色の壁と柱を特徴とする外観の優美さと、窓枠に見られるような幾何学模様との対比を楽しむことが出来ます。平成11年から保存・修復工事、平成13年9月に完成。(平成9年国の有形文化財指定) (角田)



開館 10:00 ~ 16:00
定休日 毎月曜日 年末年始
見学料 400円
(※催事有・事前確認が好ましい)
豊島区西池袋2-31-3
電話: 03-3971-7535

来館者の声

- ♣地域資料が少々少ない気がした。手入れが良く行き届いている。(都内、30代、散歩中に、初めて、男性、3/28)
- ◇豊島区立郷土資料館の分館です。今後ご期待にそえるようにしてまいります。
- ♡結婚し青梅に嫁にってから初めて参りました。2人子どもを連れて見る旧宣教師館はとても懐かしく、歳月が戻る感じがいたしました。(青梅市、3回以上、30代、女性、4/28)
- 【編集後記】今号より、寄せられたレファレンス(照会・問い合わせ)も時折紹介します。小さく、資料も少ない館ですが、小回りで対応します。ご利用ください。(文責 浜地)